

大型連休、天候に恵まれ行楽地は混み合いましたが、皆さんどのように過ごされましたか？ ジュニア合宿や JSCA 東海ブロック大会に参加された選手の皆さんは、忙しかったことでしょうね。

愛知県春季スプリント水泳競技大会

5月8日 日本ガイシアリーナ

今年度最初の公式大会でした。この大会は、小学生以上で登録完了者であればだれでも参加できる、唯一制限タイムのない大会です。(9月には秋季大会があります) 4種目・50mで全てタイムレース決勝です。認定基準により各クラスの記録を認定し、本連盟より認定証とバッジが与えられます。自分の力を試すチャンスです。是非9月には、挑戦してください！



(練習会の様子)

中学校合同練習会について

冬季の練習として、日本ガイシ50m温水プールを借りて、複数の中学校で練習会をしています。今年で15年目になります。最初は、参加する学校も生徒も集まらなく「どうしよう」と悩んだ時期もありました。少しずつ参加校が増えてきて、現在、多いときは10校近く160人ほどの生徒が集まり、「大盛況過ぎて十分に泳げず困る」という贅沢な悩みに変わりました。また、3ヶ月に1回のペースで記録会も行い、順調に回数を重ねてきており、中学校の水泳部生徒や顧問のモチベーションの維持に役立っています。これからも中学校の水泳部(部活動)で頑張っている生徒達のために続けていきたいと思っております
中学校水泳部顧問よりお手紙いただきました

学校のプール使用は限られており、部活動の存続が危ぶまれています。泳ぐことが大好きな生徒はいっぱいいます。これからも、ご指導よろしくお願ひします。

本当に素晴らしかった 日本選手権



開始式で「君が代」が
斉唱された



箕輪田愛知水泳連盟会長はじめ
オリンピックによるプレゼンター



決勝開始前のエキジビション
で会場も盛り上がる

「やっぱり雰囲気違うよ。すばらしい。いい経験だね。」と、観客席のあちこちから聞こえた。地元で行われたこの大会は、テレビとは違う「生」の感動を味わっていただけたと思う。お手紙頂いたので紹介します。

地元名古屋で行われた、第93回競泳日本選手権はドラマチックだった。1日目の男子400m個人トレーで優勝した瀬戸選手と2位となった萩野選手の0.01秒差には驚かされた人も多かったと思う。それ以上に最終日の男子50m自由形決勝の塩浦選手と中村選手の22秒を切る戦いは、同着1位というドラマチックな結果で、会場は大いに沸いた。

私が観戦した最終日の8レースはどれもドラマチックで、そのドラマは選手の厳しい練習から生まれたものだと思うと、ひとしお感動した。200m背泳ぎで10連覇だった入江選手の「さすががしく負けさせてもらった。この負けは絶対に意味がある」ということば。日本女子選手初の5冠に「達成感でいっぱい」と語った池江選手の喜びのことば。そして、この日この会場に自分がいられた幸運もまたドラマだと感じ、たくさんのドラマを心に刻んで、久しぶりに訪れたプールを後にした。

ありがとうございました。このすばらしい経験を今後の大会に生かしていきたいと思ひます。